

新型コロナウイルス (COVID-19) 罹患時における 女子大学生の行動および意識調査

吉川 尚志

食物栄養科・総合教養センター

はじめに

2019年に発生した新型コロナウイルス (COVID-19) の感染はその感染者数の増減を繰り返し、現在もいまだ世界中で猛威を振るっている。2022年現在の在校生は高校時代からその影響を受け、オンライン授業や課外活動の停止を受け入れざるを得なかった。本学においても、最大限の配慮を行う中での学校運営を行ってきた。2022年6月にはようやく新型コロナウイルス感染の第6波が収束に向かう傾向にあり、例年実施している課外活動の発表の場となる夏 Fes の開催を決定し、実際に2022年7月3日に実施した。そこではダンスやファッションショー等の発表から運営まで多くの学生が関わっていた。その際の感染対策として、消毒やステージでの発表時以外についてはマスク着用の義務化等を行っていたものの、翌日の2022年7月4日より多くの学生からの新型コロナウイルス罹患報告が入り、急遽、大学もその対策としてオンライン授業推進期間となった。筆者自身、参加団体の1つであるダンス部の顧問をしており、そのダンス部からは夏 Fes に73名が参加し、41名からの罹患報告があった。いわゆるクラスターの発生である。

この論文は、自戒の念も含め、今後の指導法の一助とすべく、今回の罹患者に対し実施したアンケートの調査結果および考察である。なお、筆者自身もこの夏 Fes の2週間後に罹患しており、一部その内容にも触れる。

1. 調査方法

部活動のミーティングに参加していた35名の罹患者に対し、無記名でのアンケート調査を実施した。実施に当たり、未回答という選択肢も含め説明した

が、すべての学生が回答してくれた。

質問項目については下記の9項目となる。

【質問1】発症した日時と最高体温

【質問2】同居人の罹患状況

【質問3】診断日と診断場所

【質問4】療養場所

【質問5】療養期間の食事

【質問6】療養期間の外出

【質問7】療養期間における授業サポート

【質問8】自身が考える感染源

【質問9】今回の感染はどうしたら防げたと思うか

2. 調査結果

(1) 【質問1】発症した日時と最高体温

表 1. 発症日

7月3日 (Fes当日)	
7月4日	5名
7月5日	11名
7月6日	11名
7月7日	4名
7月8日	4名

表 2. 最高体温 (°C)

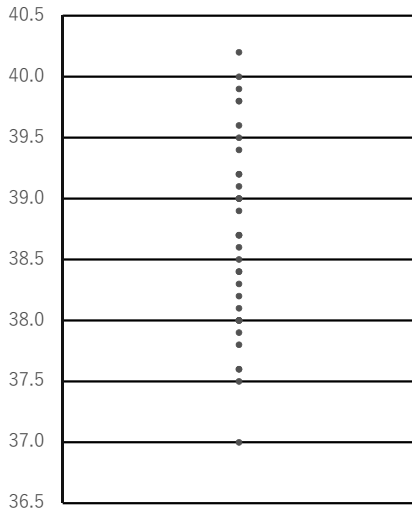


表 1 からは多くの学生が夏 Fes の実施後 2 日目と 3 日目に発症していることがわかる。また、表 2 は最高体温の散布図であるが、平均 38.7 ± 0.8 °C となっており、中には高熱を発していない学生もいることがわかる。

(2) 【質問 2】同居人の罹患状況

家族が数日以内に感染したという回答が 5 名からあった。新型コロナウイルス感染の第 7 波では報道によると感染源の大半が家族内感染との発表であったが、予想に反して少ない数であった。

(3) 【質問 3】診断日と診断場所

表 3. 診断日

発熱当日	25名
発熱 1 日後	8名
発熱 2 日後	0名
発熱 3 日後	1名
発熱 5 日後	1名

表 3 よりほとんどの学生が、発症後すぐに近医を受診して検査を受けていることがわかる。中には 2 名ほど、救急車にて救急病院に受診したこともわかった。筆者は東京都発熱相談センターに電話し、3 つ

の近医を紹介されたが、いずれも電話が繋がらず、タクシーも使用しないように指示されたため徒歩にて向かうもすべての医院において午前中にもかかわらず翌日以降の診察となる旨を告げられ、離れた中規模病院にて診察を受けた経緯がある。アンケートの中には両親の運転する自家用車での移動の記載があったが、東京や大阪で始まっているファストドクターのシステムが全国的に整備されることを期待したい。

(4) 【質問 4】療養場所

表 4. 療養場所

自宅	33名
指定ホテル	2名

表 4 よりほとんどの学生が自宅療養となっている。残りの 2 名は東京都と千葉県のホテル療養であった。そのうちの 1 名は最高体温 37.6 °C であり、当時、新型コロナウイルス感染の第 7 波の初期段階であったためホテルや病院に余裕があるとの報道ではあったものの、どのような基準でホテル療養が認められるのかは不明である。

(5) 【質問 5】療養期間の食事

表 5. 療養期間の食事 (複数回答あり)

自宅の家族が準備	24名
サポートセンターから送ってもらった	6名
親から送ってもらった	3名
療養ホテル支給弁当	2名
寮の食堂から運んでもらった	1名

表 5 よりほとんどの学生が自宅の同居する家族からの食事提供を受けているが、中には一人暮らしの学生もおり、寮の食堂からの食事提供を受けたものが 1 名いた。また、自治体のサポートセンターからの支援物資を受けたものが 6 名いた。筆者もそのサポートを受けたうちの一人であるが、筆者の発症時は罹患者数が劇的に増加している時であり、支援物

資を受け取ったのが発症後7日目であり、それまでは非常食で過ごしていた。支援物資は大きな段ボールで2箱分、大量の食糧が入っていたが、東京都の委託業者は軽トラックで配送しており、一度に運べる数にも限界もあり遅れたようである。サポートセンターのホームページによれば、筆者が受け取った翌日より、支援物資の段ボールサイズも小さくなった上、1箱となったようである。参考までに、筆者が受け取った支援物資は下記のとおりである。

- ・カップ麺 ×10
- ・レトルト食品 ×16
- ・缶詰 ×14
- ・ふりかけ ×1
- ・ペットボトルジュース ×7
- ・エナジードリンク ×6
- ・ゼリー ×8
- ・パスタ ×1
- ・パック茶葉 ×1
- ・インスタント味噌汁 ×12
- ・プロテインバー ×4
- ・菓子類 ×2
- ・海藻サラダ ×6
- ・パック白米 ×10
- ・ドレッシング ×1

(6) 【質問6】療養期間の外出

この質問では療養期間における学生の行動を把握するためのものだが、この質問に対し、2名の学生が一度だけコンビニエンスストアに外出したとの回答があった。それ以外の学生は一度も外出せずに療養期間を過ごしたとのことであった。公的機関や本学保健室の指導の賜物と言えるかもしれないが、ここまでコンプライアンスが良いとは予想外であった。

(7) 【質問7】療養期間における授業サポート

この質問では、高校までの時と異なり大学では出席停止というものはないのだが、登校禁止を言われた中で、大学から実際にどの程度サポートを受けられたかという質問である。大学自体、オンライン推奨期間としたので、全員100%オンライン等でサポートを受けることができたという回答を期待した質問

であったが、6名の学生は一部の科目において欠席扱いとなってしまった科目があったとの回答であった。それ以外の29名に関しては100%何らかの対応をしていただいたという回答であった。

(8) 【質問8】自身が考える感染源

表6. 自身が考える感染源（複数回答あり）

夏Fesの開催	24名
夏Fes後の会食	14名
夏Fesの控室	4名

表6より夏Fesの開催自体が感染を生んでしまったとも読み取れる回答が最多であった。また、この回答に包含されるのかもしれないが、夏Fesでの控室を原因として回答したものが4名いた。実行委員からステージ上以外でのマスクの着用を指示されていたにもかかわらず、着用していなかったものが数多くいたようである。そのほか、夏Fes終了後に会食やカラオケに行った学生が多数おり、保健室の聞き取り調査でカラオケに行った学生はほぼ全員感染している。限りある学生生活の中で友人と少しでも楽しい時間を過ごしたいという気持ちは理解できるものの、現状を理解し行動に反映させるための指導が我々教職員には求められる。

(9) 【質問9】今回の感染はどうしたら防げたと思うか

表7. 今回の感染はどうしたら防げたと思うか（複数回答あり）

マスク着用の徹底	18名
ひとりひとりの意識向上	6名
消毒の徹底	3名
不可避	3名
会食やカラオケを控える	2名
本番直前のPCR検査実施	2名
練習日を減らす	1名

表7より多くの学生がマスクの着用が十分でなかったと認識していることがわかる。なかには無責任とも思える回答もあるが、【質問8】で感染源を会食

としている回答が多数いるにもかかわらず、【質問9】において2名しか会食と回答していないのも矛盾が生じる。本番直前のPCR検査実施については夏Fes以降、小規模イベントにおいても学生部と保健室で実施している。

3. 結論と今後の課題

今回この調査を行うにあたり、多くの論文に目を向けたが、学生に限らず新型コロナウイルス罹患時における行動や意識調査を実施したものをみつけることはできなかった。アンケート結果を見るまでは筆者自身、バンドラの箱を開けてしまうのではないかという緊張感もあった。しかし、登校禁止期間における学生の行動は大学や保健所の指示通りにしっかりと自宅待機がなされていた。一方で、今回の新型コロナウイルス（COVID-19）罹患時における原因や今後の対策意識としては被害者意識や他人のせいであるともとれる回答が見られた。【質問9】においてひとりひとりの意識の向上と回答した学生がいるが、それを指導するのも我々教職員の使命なのかもしれない。

また、今回この論文を著す起因となったのは本学の夏Fesであり、新型コロナウイルス感染第6波の収束を鑑みて実施を決定したのだが、後にわかることではあるが新型コロナウイルス感染第7波の始まりの時であった。高校時代から正課授業はもちろんのこと課外活動も多く制限されてきた学生たちに少しでも活躍の場をつくりたいという思いから夏Fesの実施をしたのだが、今後、同じことを繰り返さぬよう最善の努力を尽くしたい。

おわりに

今年の秋Fes（学園祭）は新型コロナウイルス感染第7波の収束傾向を確認し、2022年11月12日、13日に実施された。そこでは感染対策を細かく設定したうえでの実施となった。代表的なものとして常時マスク着用（ステージ上であっても）と実施日10日前と前日の抗原検査の実施である。その結果、クラスターを起こさずに秋Fesを終えることができた。また、ほかのイベントでも予め抗原検査の実施に努めている。

新型コロナウイルス（COVID-19）の存在が確認されてからはや3年が経つものの未だに終わりが見えないものとなっているが、未曾有の危機の中でも教育者としてコンプライアンスを遵守した安全な学びの環境を作りたい。

末筆ながら感染対策に臨んでくださっている教職員に心より感謝申し上げます。